

# Cisco CallManager クラスタでの切断された SQL サブスクリプションの DBLHelper を使用した再構築

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[DBLHelper を使用したパブリッシャとサブスクリバの関係の再確立](#)

[SQL サブスクリプションが動作していることの確認](#)

[IsChangeNotifyReady エラーは新しい サブスクリバが追加された後現われます](#)

[関連情報](#)

## 概要

Structured Query Language ( SQL; 構造化照会言語 ) データベースの複製は、Cisco CallManager クラスタのコア機能です。Cisco CallManager データベースのマスター コピーを持つサーバをパブリッシャと呼び、そのデータベースを複製するサーバをサブスクリバと呼びます。サブスクリバサーバは、パブリッシャ データベースへの新しい変更の有無を調べるため、常時、パブリッシャサーバへのポーリングを行います。新しい変更が行われると、サブスクリバはサブスクリプションをプルし、データベースへの最新の変更を受信します。

サブスクリバがパブリッシャからのデータ複製を停止した場合は、ユーザはパブリッシャとサブスクリバの関係を再構築する必要があります。このドキュメントでは、DBLHelper ユーティリティについて説明します。このユーティリティは、サブスクリバ データベースとパブリッシャ データベースの間の切断されたサブスクリプションを、再発行または再初期化します。

注: Cisco CallManager サーバが「ドメイン」の一部である場合、DBLHelper を適切に実行するには、Cisco CallManager サーバに対して、ドメイン アカウントではなく Cisco CallManager サーバの「ローカル管理者」アカウントでログインする必要があります。

## 症状

サブスクリバがパブリッシャからの複製を停止した場合に、発生する可能性のある症状を一覧にします。

- サブスクリバに登録されている電話機に、パブリッシャへの変更が反映されない。
- サブスクリバに登録されている電話機からの発信コールが失敗する。9 をダイヤルするとすぐにリオーダー トーンが流れる。
- Call Forward All ( CFwdALL; 全コール転送 ) ができない。

- IP Phone に Error Database と表示される。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントは、MSSQL 7.0 を使用する場合に、SQL Administrator ( SA; SQL 管理者 ) アカウントのパスワードがパブリッシャとサブスクライバの両方で利用可能であることを前提としています。SQL Server 2000 を使用する場合は、管理者権限があることを前提とします。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco CallManager 3.x および 4.x

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## DBLHelper を使用したパブリッシャとサブスクライバの関係の再確立

次の手順を実行します。

1. アプリケーション イベント ログに Cisco CallManager のフェールオーバーの問題や SQL の複製エラーが見られた場合は、まず DBLHelper.exe ファイルを確認します。このファイルは、c:\program files\cisco\bin ディレクトリにあります。この場所に最新の DBLHelper ファイルがあることを確認してください。このファイルがシステムにない場合は、Cisco テクニカルサポートでサービスリクエストをオープンし、切断された SQL サブスクリプションについて詳しく説明してください。サービスリクエストをオープンするには、[Cisco TAC Service Request](#) ( [登録](#) ユーザ専用 ) を使用してください。注: DBLHelper はパブリッシャでのみ動作します。
2. シスコのテクニカルサポート エンジニアは、DBLHelper.exe アプリケーションを提供できます。Cisco CallManager バージョン 3.0 または 3.1 を使用している場合は、その旨をテクニカルサポート エンジニアに通知してください。テクニカルサポート エンジニアは、odbc++ ファイルも送信できます。注: DBLHelper は Cisco CallManager 3.x および 4.x と互換性があります。odbc++ ファイルは、DBLHelper.exe とともに c:\program files\cisco\bin にあります。
3. SQL 複製は、NetBios の名前解決に依存しています。必要に応じて、c:\winnt\system32\drivers\etc\lmhosts ファイルがあることを確認してください。
4. lmhosts.sam ファイルだけがある場合は、start/run をクリックし、cmd と入力して、Return を押します。

5. 次に示すように、C:\プロンプトで cd \winnt\system32\drivers\etc と入力します。
6. **lmhosts.sam** <space> **lmhost** をコピーして下さい。
7. **lmhosts** ファイルを編集します。
8. ファイルを保存して **Exit** をクリックします。
9. Windowsエクスプローラから、選定された **c:\ > Program Files > cisco** は、**ピンディレクトリ**をクリックし、**DBLHelper.exe** をダブルクリックします。次のウィンドウが表示されます。  
注: 赤いしかめ面のアイコンは、Cisco CallManager のパブリッシャとサブスクリバの間の SDL サブスクリプションが切断されていることを示しています。Republish ボタンを押すと、現在のサブスクリプションが削除され、再作成されます。Reinitialize ボタンを押すと、すべてのサブスクリプションが再初期化され、スナップショット エージェントが起動します。また、現在のデータベースでのサブスクリプションの再構築を試みます。
10. オプションを選択すると、ボタンはグレー表示になります。操作が完了し、データベースが再確立されると、次のウィンドウが表示されます。再発行を行っても複製の問題が解決せず、赤いしかめ面のアイコンが表示される場合は、すべての Cisco CallManager サーバでデータベース名が一致しているかどうか確認します。サブスクリバの CallManager サーバのいずれかに異なった名前がある場合は、そのサブスクリバのデータベース名を更新します。Windowsレジストリ エディタをこと特定の Cisco CallManager サーバ開き、**HKEY\_LOCAL\_MACHINE > SOFTWARE > Cisco Systems** に **株式会社 > DBL** 参照して下さい。レジストリ エントリ **DBCONECTION0**、**DBCONECTION1** などを検索します。これらのエントリの値を、パブリッシャのデータベース名に更新します。  
**DBCONECTIONx** エントリの値は、次のようになります。  

```
DSN=CiscoCallManager;SERVER=CCM-4;DATABASE=CCM0300;Trusted_Connection=yes
```

パブリッシャのデータベース名が **CCM0301** であれば、レジストリ値を次のように更新します。  

```
DSN=CiscoCallManager;SERVER=CCM-4;DATABASE=CCM0301;Trusted_Connection=yes
```
11. **NameResolution** タブは、ドメイン ネーム システムがあるかどうかを示します。  
( DNS ) エントリまたはホスト エントリは、名前 IP アドレスの解決を示します。また、サーバ間のネットワーク遅延がある場合はそれも示します。
12. **Compare DB** タブでは、Cisco CallManager のリリース バージョン間でデータベースを比較できます。注: これは使用しません。
13. **BackupData** タブでは、データベースをバックアップし、.csv 形式で保存できます。注: これは、Cisco CallManager データベースのバックアップ方法としてはサポートされていません。注: パブリッシャで動作した後 **DBLhelper** アプリケーションを閉じること本当に 5 月。DBLhelper がアクティブに残っている場合、によりイベント ビューアでエラーを引き起こす場合があります。

## SQL サブスクリプションが動作していることの確認

1. データの伝播をテストするには、認識しやすいパブリッシャ サーバでデバイスを作成し、**Insert** をクリックします。
2. デバイスを機能させる必要はありません。Update、Close の順にクリックします。
3. SQL Enterprise Manager へ移動し、問題の SQL サブスクリバを展開し、データベース テーブルに新しいデバイスがあるか確認します。
4. デバイスは認識しやすいほど、見つけやすくなります。

## IsChangeNotifyReady エラーは新しい サブスクリバが追加された後現われます

クラスタに新しい Cisco Unified CallManager サブスクリバを追加した後、IsChangeNotifyReady

SQL エラーはパブリッシャにあります。

このエラーメッセージを解決するために DBLhelper ツールを実行して下さい。

## 関連情報

- [Cisco Unified CallManager 互換性マトリクス](#)
- [CallManager 3.0、3.1、および 3.2 を使用した、破損した Cisco CallManager クラスタ SQL サブスクリプションの再構築](#)
- [Cisco CallManager 3.3 を使用する、破損した Cisco CallManager クラスタ SQL サブスクリプションの再構築](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)